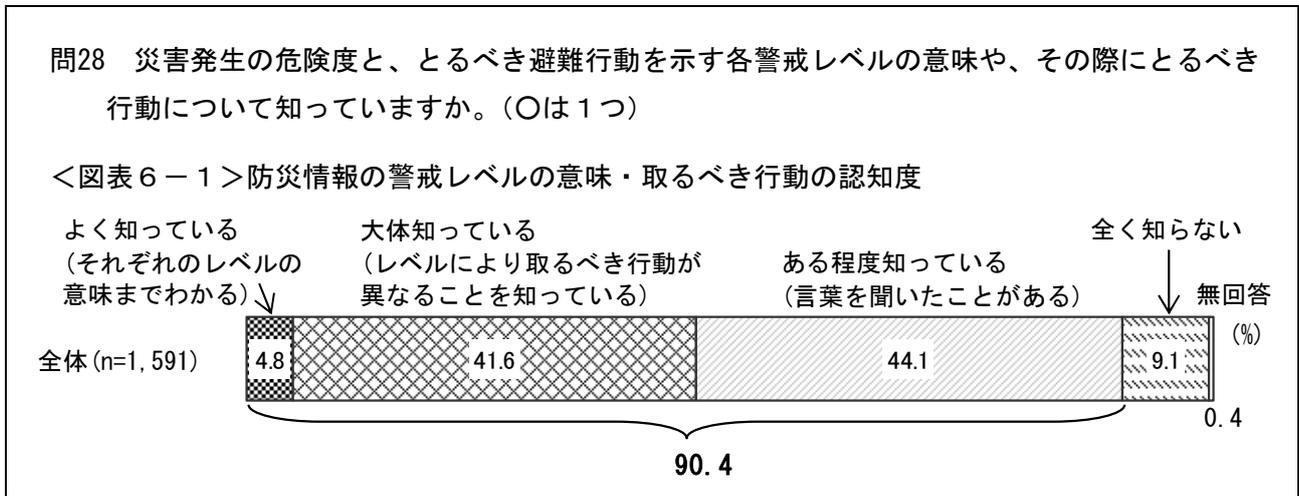


## 6 防災に関する取組について

### (1) 防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

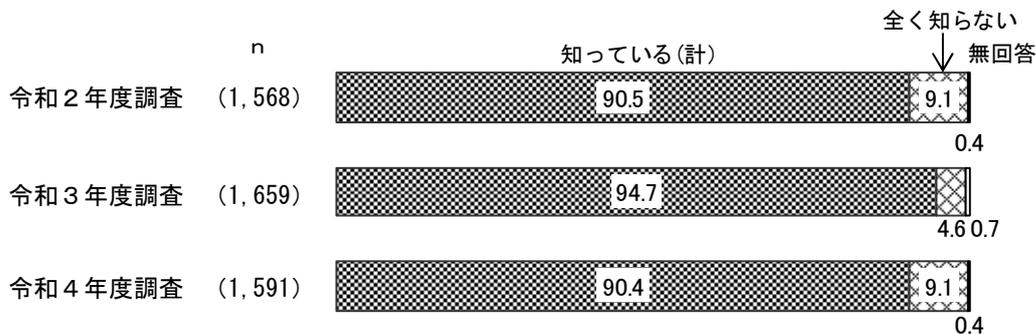
◇『知っている（計）』が9割



水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動についてを知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（4.8%）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（41.6%）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（44.1%）の3つを合わせた『知っている（計）』（90.4%）が9割となっている。

一方、「全く知らない」（9.1%）が約1割となっている。（図表6-1）

【参考】令和2年度・3年度の同様及び類似の項目による調査結果（単位：%）



(※) 令和2年度調査で、「水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「危険な場所から高齢者等は避難」、レベル4で「危険な場所から全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法で行われております。あなたは、各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

#### 【地域別】

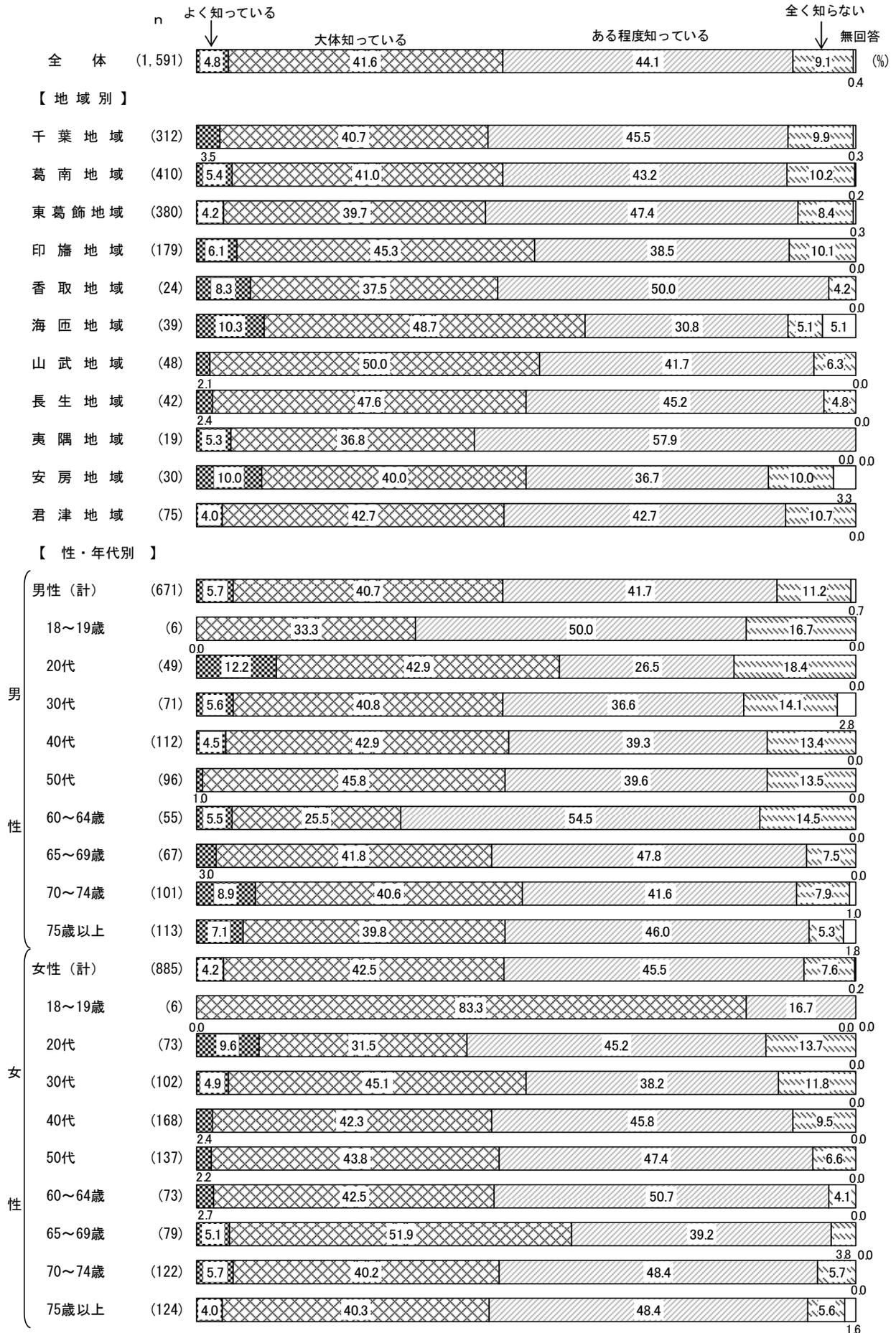
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「全く知らない」は男性の20代（18.4%）が約2割で高くなっている。

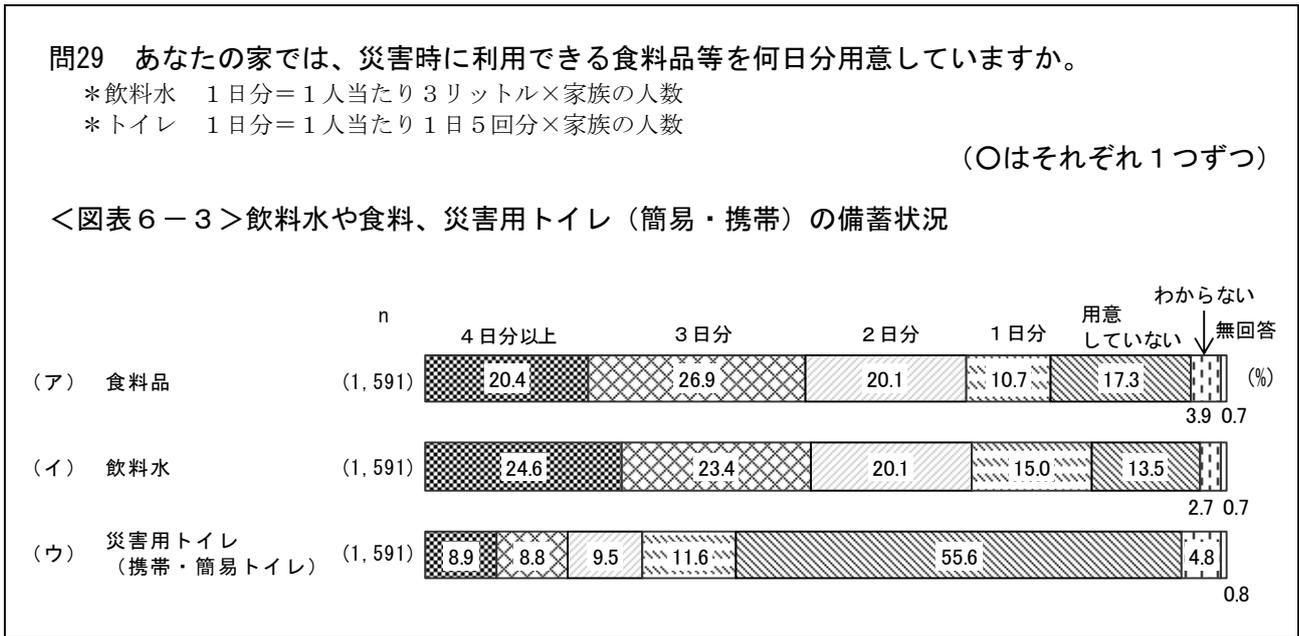
（図表6-2）

<図表6-2>防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度／地域別、性・年代別



（2）飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況

◇『用意している（計）』が最も高いのは＜飲料水＞で8割を超える

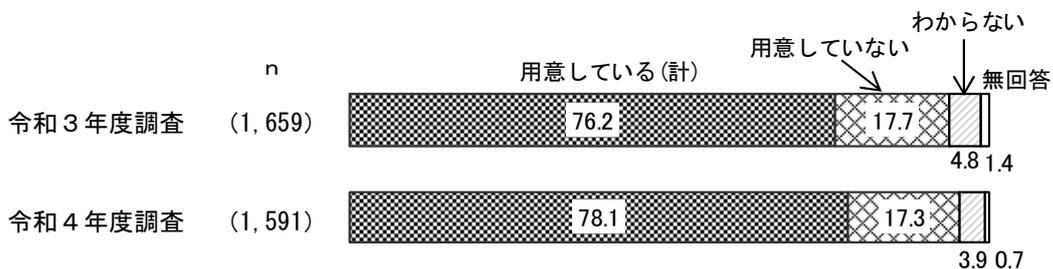


災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「4日分以上」、「3日分」、「2日分」、「1日分」の4つを合わせた『用意している（計）』が最も高いのは、「(イ) 飲料水」(83.1%)で8割を超えており、以下、「(ア) 食料品」(78.1%)が約8割、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」(38.8%)が約4割となっている。

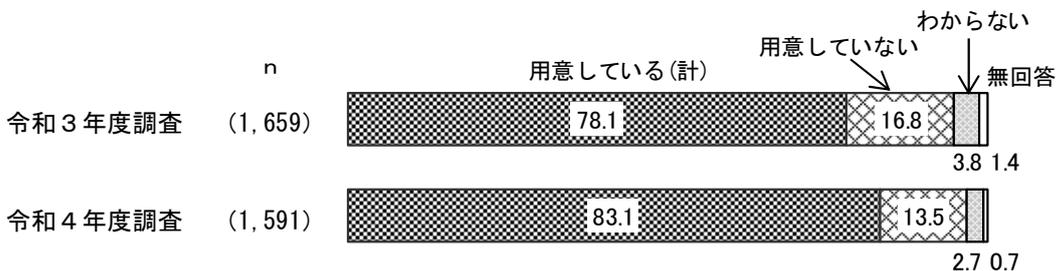
一方、「用意していない」が最も高いのは、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」(55.6%)で5割台半ばとなっており、以下、「(ア) 食料品」(17.3%)が約2割、「(イ) 飲料水」(13.5%)が1割台半ばとなっている。（図表6-3）

〔参考〕令和3年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

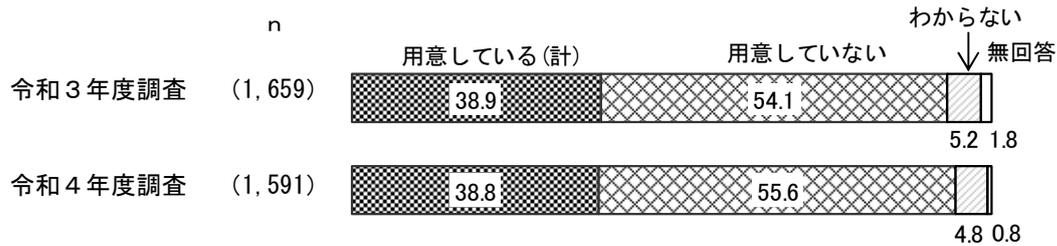
食料品



飲料水



**災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）**



**【地域別】**

地域別にみると、「(ア) 食料品」は大きな傾向の違いは見られない。

「(イ) 飲料水」の「用意していない」は“東葛飾地域”（16.8%）が1割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の『用意している（計）』は“千葉地域”（44.6%）が4割台半ばで高くなっている。

一方、「用意していない」は“安房地域”（73.3%）が7割を超えて高くなっている。（図表6-4）

**【性・年代別】**

性・年代別にみると、「(ア) 食料品」の『用意している（計）』は女性の65～69歳（91.1%）が9割を超え、男性の40代（85.7%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「用意していない」は男性の20代（30.6%）が3割、女性の20代（27.4%）が約3割、女性の30代（26.5%）が2割台半ばで高くなっている。

「(イ) 飲料水」の『用意している（計）』は男性の65～69歳（92.5%）と女性の65～69歳（92.4%）が9割を超え、女性の70～74歳（90.2%）と女性の75歳以上（90.3%）が9割で高くなっている。

一方、「用意していない」は女性の20代（30.1%）が3割、男性の20代（28.6%）が約3割、女性の30代（20.6%）が2割で高くなっている。

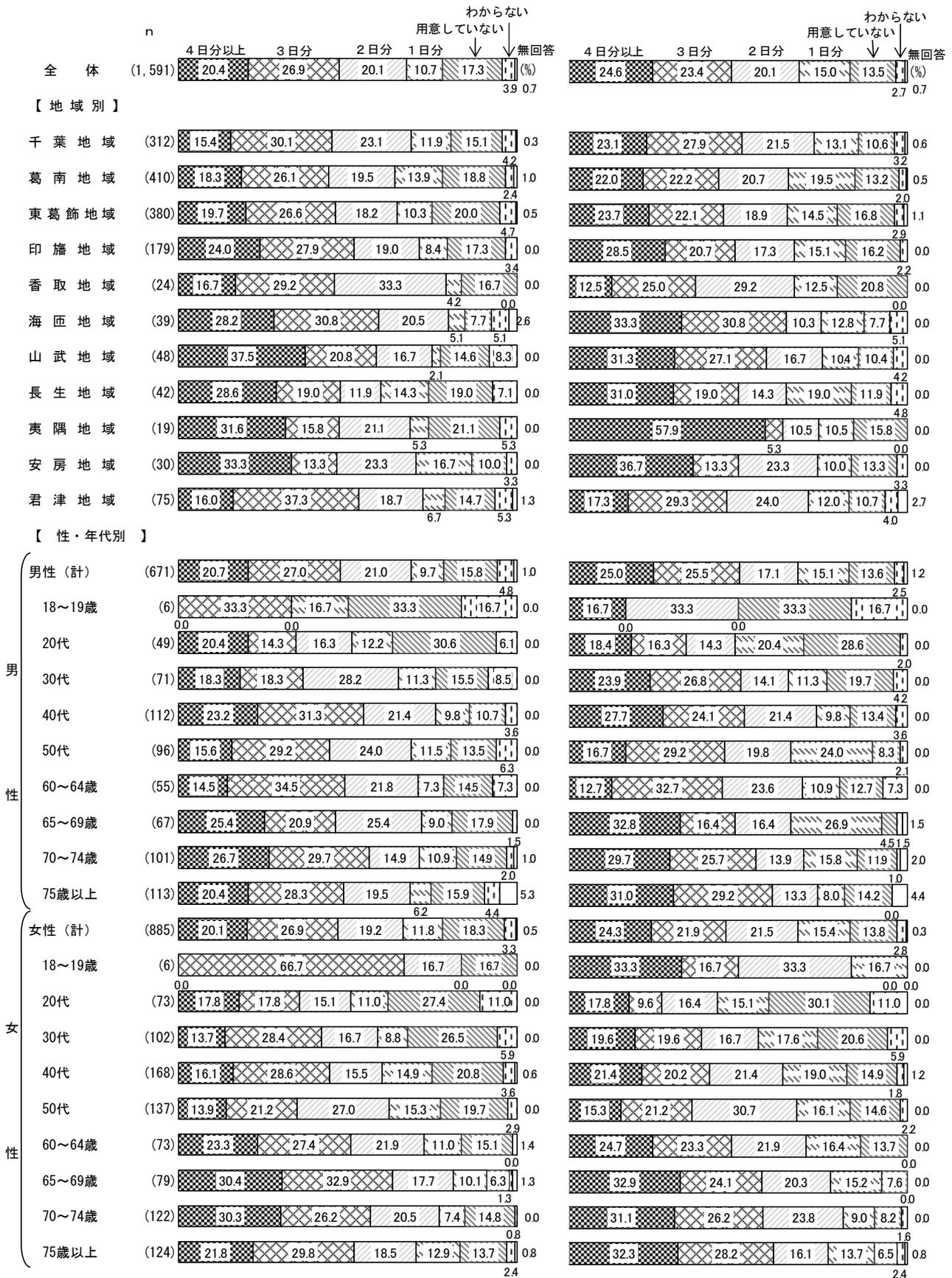
「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の『用意している（計）』は女性の65～69歳（51.9%）が5割を超えて高くなっている。

一方、「用意していない」は男性の20代（77.6%）が約8割で高くなっている。（図表6-4）

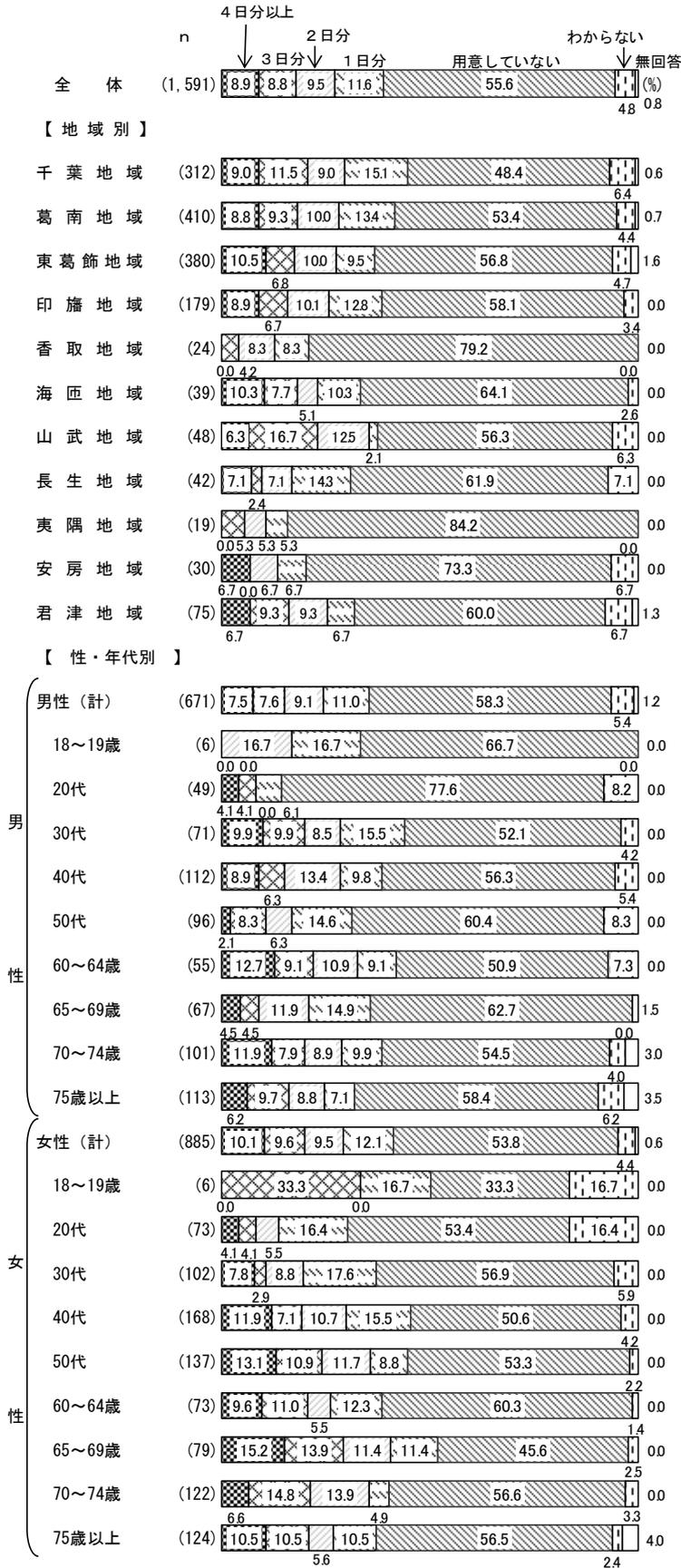
＜図表6-4＞飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況／地域別、性・年代別

(ア) 食料品

(イ) 飲料水

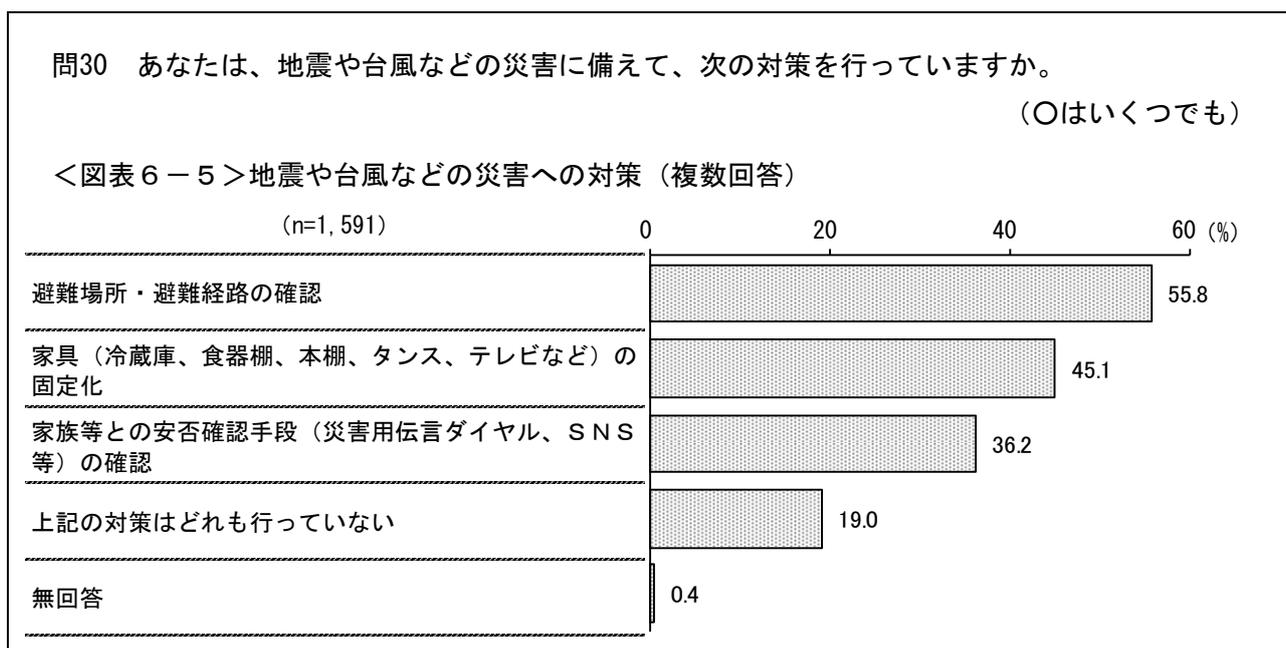


(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



### （3）地震や台風などの災害への対策

◇「避難場所・避難経路の確認」が5割台半ば



地震や台風などの災害に備えて、どのような対策を行っているか聞いたところ、「避難場所・避難経路の確認」（55.8%）が5割台半ばで最も高く、以下、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（45.1%）、「家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS等）の確認」（36.2%）が続く。

一方、「上記の対策はどれも行っていない」（19.0%）が約2割となっている。（図表6-5）

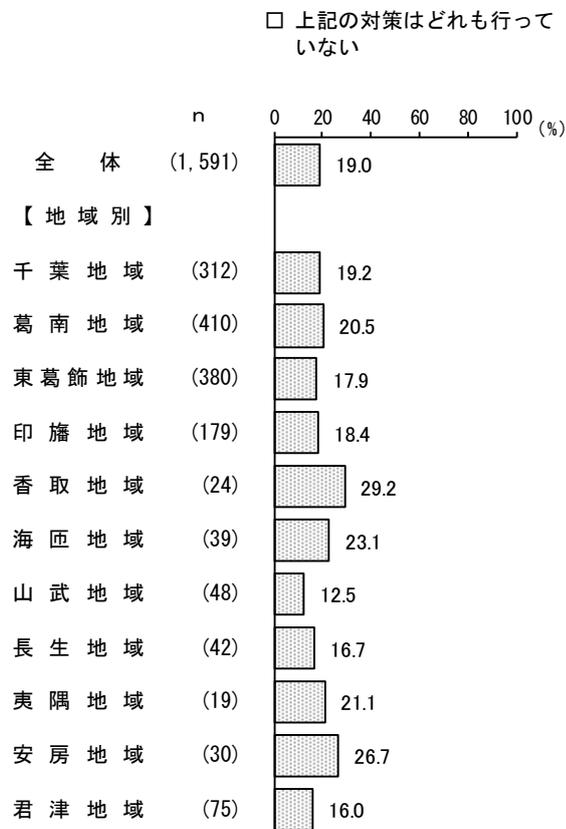
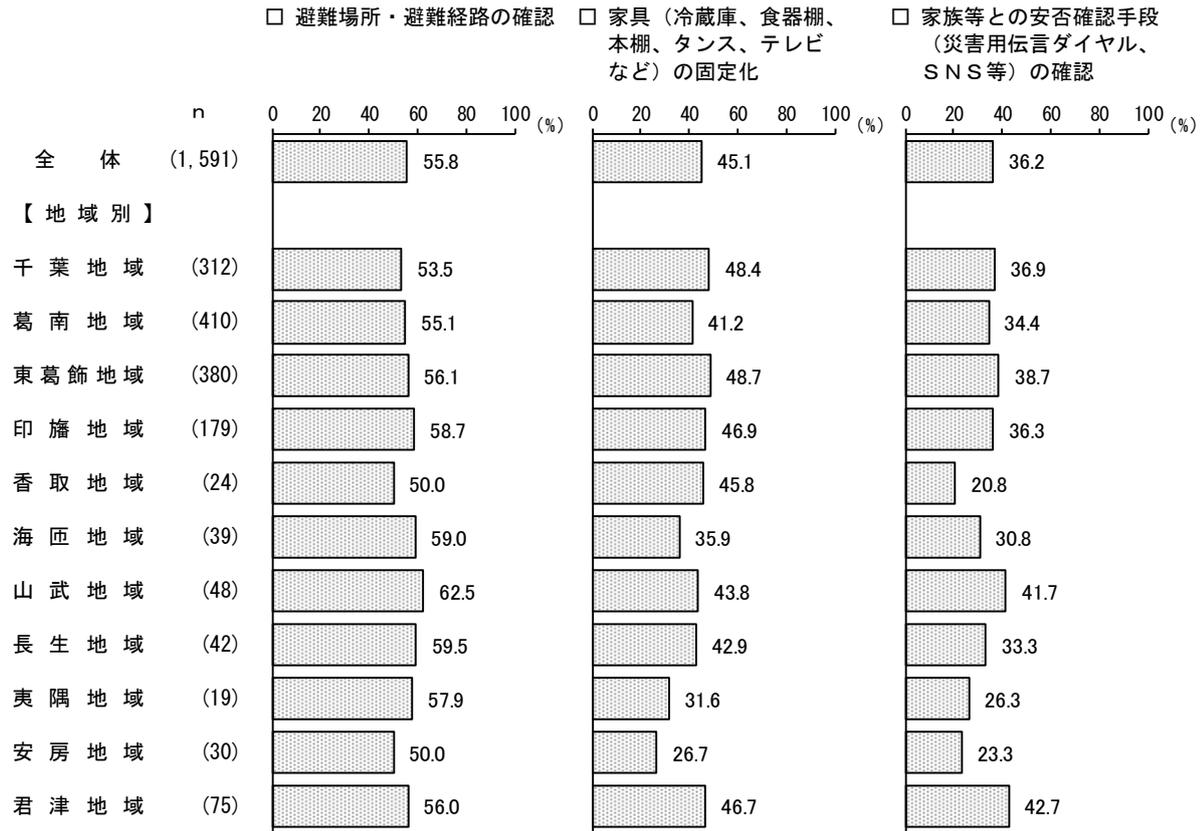
#### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表6-6）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「避難場所・避難経路の確認」は女性の60～64歳（68.5%）が約7割で高くなっている。（図表6-6）

<図表6-6>地震や台風などの災害への対策（複数回答）／地域別、性・年代別



第63回県政に関する世論調査（R4年度）

